

動物とその飼い主の“安心”につながる、 ペット医療業界の働き方改革を目指す。

飼い主にとっては、家族のように大切なペット。その命を守るために求められるのが、夜間診療に対応する動物病院だ。しかし、全国的に見ても夜間診療を専門とする動物病院は少なく、一般的な動物病院で夜間診療を行うケースでは、日中の診察をメインとする医師やスタッフの消耗が厳しくなり、十分な診療のクオリティが担保されないという課題がある。そうした課題の解消を目指し、茨城県でつくば夜間動物病院を開院したのが、同院長の唐津健輔氏だ。

唐

津氏は、東京大学を卒業後に獣医師免許を取得。茨城や千葉などの複数の動物病院で、獣医師として勤務した。

「病院側としては、大切なペットの命を守るという志を持って夜間診療を行っていても、医師や動物看護師が昼間の勤務との掛け持ちになるため、どうしても夜間は万全な状態での診療ができなくなります。夜間に救急で来られた患者様の治療に万全を尽くせないケースも少なくはなく、常にそうした状況にもどかしさを感じていました」。

そう話す唐津氏は、地域のペット医療に貢献したいという強い思いから独立を決意。自らの勤務地であり、夜間専門の動物病院のない茨城県での開院を目指し、夜間の救急診療を専門に行

う他県の病院で経験を積んだ。

一般的動物病院は、患者であるペットの日常の

“かかりつけ医”として、その生涯に寄り添うような存在だといえる。対して、緊急時などの対応が多い夜間診療を専門に行う病院は、一度の診察で適切な診断と治療を行い、患者を安全な状態でかかりつけの医師に引き継ぐことが最重要課題となる。夜間診療ならではの役割を果たすには、医師やスタッフの働き方や患者との向き合い方、必要な知識や技術など、昼間の診療とは異なる獣医師としての知見や経験が必要だ。唐津氏は勤務医としての2年間で準備を重ね、2021年に茨城県初の犬・猫を専門とした夜間専門動物病院を開院。「地域の動物病院との連携を重視したい」との思いから、開院前には近隣の動物病院にできる限り足を運ぶなど、細やかな営業活動も行った。

むろん、大前提となるのは質の高い医療の提供だ。実際の診療で適切な診断を下し、かかりつけの医師にスムーズに患者を引き継ぐことができれば、当然ながら地域の動物病院との信頼関係は築けない。

その点に尽力してきた同院は現在、平均して1日に7〜8件の外来に対応。来院患者は一般的な動物病院の夜間診療に比べ

て遥かに多く、急を要して来院する患者の居住地は、今や茨城県内のみならず千葉や埼玉、栃木にまで広がっている。

「開院以来、当院が目指してきたのは、夜間診療を通してペットとその飼い主様に安心を提供すること、地域の動物病院と協力して切れ目のない地域医療を実現すること。今後も地域の動物病院との信頼関係を大切にしつつ、夜間診療に特化した医療の質をより向上させていきたいと考えています」。

そう話す唐津氏がもうひとつ力を注ぐのが、ペット医療業界における働き方改革だ。

獣医師を目指す学生たちの間では、犬や猫の診療を行うペット専門医が今もっとも人気のある進路となっている。また、動物看護師も若い女性などに人気が高いが、仕事の大変さや賃金の安さから多くの人が勤務後に挫折してしまうなど、現状では夢のある仕事とは言い難い。

「そうした現状を少しでも変えるため、当院では夜間診療の需要が多い時間帯のみに診療時間を設定し、スタッフの拘束時間を大きく減らしています。また、専門家である動物看護師に無駄な作業をさせないための設備導入など、業務の効率化を図ることで、精神的にも時間的にも余裕を持って働いてもらえる

CHALLENGER

KARATSU KENSUKE

つくば夜間動物病院 院長

唐津健輔

1985年山口県生まれ。東京大学卒業後に千葉や福岡の動物病院で研修を積んだ後、茨城や千葉で複数の動物病院に勤務。さらに埼玉の熊谷夜間緊急動物病院で2年間、夜間専門診療を経験した後、2021年につくば夜間動物病院を開院。

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

さ

らに同院では、地域の病院と連携し、昼夜の診療で疲弊する他院の獣医師やスタッフの負担を軽減するため、日中と夜で患者の移動を行うといった取り組みも進めている。近年では全国各地に夜間専門動物病院が少しずつ増えている

ものの、「夜間診療のニーズから見るとはまだ足りない」と唐津氏は話す。加えて、ペット医療を担うスタッフの人材不足も業界の大きな課題だ。

「たとえば、ペット医療に関わる夢を持ちつつも挫折してしまつた方々の再チャレンジなども、当院では応援したいと考えています。また、獣医師としての技量に自信を持ち、夜間医療の領域に興味がある方には、地域のニーズに合った夜間専門動物病院をぜひご自分で開院していただきたい。そのために必要な知識やノウハウなどは共有したいと考えていますし、日本におけるペットの地域医療をより充実したものにするために、私自身も挑戦を続けていきたいと思っています」。

つくば夜間動物病院 <https://tsukubayakan.studio.site>